

## 令和5年度 東京都立八王子盲学校 学校経営報告

校長 安田 咲登子

### I 今年度の取組と自己評価

『一人一人の最適な学びを追究し、生きる力を育む学校』を「目指す学校」として掲げた。今年度5月には、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行され、学習活動や学校行事については、従来の形で再開できたものが多くあった。しかし、これを契機として効果的、系統的な行事の在り方などを検討し「元に戻す」のではなく「新たに創る」方針を浸透させて学校経営に取り組んだ。また、学習においては、3年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症への対応の過程で習得した新たな学び方、再認識された健康・安全及び人との関わり大切さを踏まえ、視覚障害教育の専門性とICT機器の活用を併用した学習指導を目指した。また、仮設校舎の建設が進み、体育的活動の場所の確保や内容の工夫などを地域関係機関や他の特別支援学校にも協力を得ながら進めた。視覚障害教育の専門性に基づく指導の継承と、校舎改築業務とも関連した精選に取り組んだ。

### 1 教育活動の目標と方策

#### (1) 視覚障害教育の専門性を発揮した学習指導 『攻め(挑戦)と守り(継承)の二刀流』

◆目標：学校評価における「個に応じた指導」「視覚障害に配慮した指導法の改善」90%以上

◆結果：「個に応じた指導」97.4% 「視覚障害に配慮した指導法の改善」98.2%

①各教科・領域の研究グループを学部を越えて編成して研究を進め、八盲の教育～実践収録～としてまとめた。新転任者研修を年40回実施し、視覚障害教育の基本を学ぶ機会とした。

②視覚障害教育に重要な触察、実体験等の専門性の継承とともに、一人1台端末、各種支援機器の利活用による個別最適な学びをさらに推進した。ICT機器に関しては、「どの時期(段階)にどのようなスキルを身に付ける必要があるか」を検討し、ICT系統表を作成した。

(1) 視覚障害教育の専門性を発揮した学習指導		『攻め(挑戦)と守り(継承)の二刀流』	
①一人1台端末を活用した授業	各学部10回以上		実施
②他盲学校とのオンライン授業及び交流	3回以上		実施
③教科書デジタルデータの活用	希望者全員		実施
④点字ディスプレイの活用	希望者全員		実施
⑤重複障害教育に関する専門性の向上	講師招聘年10回		実施
⑥日本の伝統・文化教育、環境教育の推進	各学部1回以上		実施
⑦主権者教育の推進	公共及び特別活動を中心に実施		実施
⑧読書活動の言語活動の充実	図書プロジェクト		△

	弁論大会（中・高）	実施
⑨点字コンテスト・漢字コンテストの実施	各年2回	実施
⑩実用英語技能検定、日本漢字能力検定、珠算能力検定、情報処理検定等の受検の推奨	年延べ20名	23名
⑪視覚障害教育の基礎定着に向けた新転任研修	年40回	40回実施
⑫自立活動の内容に関する校内専門研修	年4回	△
⑬視覚障害教育の専門性向上に向けた教科グループ研究	月1回	実施
⑭全校教職員対象研修会	年1回	実施
⑮全教員の研究授業	一人1回以上	実施
⑯授業改善推進プランの作成、授業研究連携校との相互連携	各学部	実施
⑰特別支援学校教諭免許状（特に視覚障害領域）の取得	未取得者全員の認定講習等の受講	△

## （２）人権尊重・生命尊重を根幹とした生活指導 安心・安全の確保 『ウェルビーイングの創造』

◆目標：学校評価「いじめ・自殺の未然防止取組」「安全に配慮した教育環境の整備」85%以上

◆結果：「いじめ・自殺の未然防止取組」89.5%

「安全に配慮した教育環境の整備」95.6%

- ①毎月いじめ対策委員会を開催し、情報共有と課題対応を行った。また、個々への対応としてカウンセラーを活用した全員面接を実施した。
- ②大規模災害に対応するためのスタータキッドを整備した。今後、有効に活用できるよう訓練及びマニュアルの周知に努める。仮設校舎移転にあたり、避難経路の設定や避難訓練の方法を迅速に検討する。

（２）人権尊重・生命尊重を根幹とした生活指導 安心・安全の確保 『ウェルビーイングの創造』		
①いじめ・体罰の状況把握、予防、早期発見、早期対応	年4回、発生0件	実施
②カウンセラー等を活用した心のケアに関する取組の充実	希望者全員 面接	実施
③校内支援会議による個別のケースの共有と対応	年3回	実施
④SOSの出し方に関する教育	年1単位時間又は 日常の指導	実施
⑤新型コロナウイルス感染症等への適時対応	随時	実施
⑥関係機関と連携した一泊二日宿泊防災訓練	年1回・中学部	実施
⑦大規模災害に対応するための防災スタターキットの設置	1学期	実施（2学期）
⑧大規模災害を想定した学校危機管理マニュアルの更新	1学期まで	実施
⑨障害特性に応じた防災研修、避難訓練の改善、実施	研修1回 避難訓練11回	実施
⑩食育の推進、特別食（アレルギー対応食含む）の安全な提供	関連事故発生0件	事故0
⑪視覚障害スポーツに関する授業（学校2020レガシー）	小学部4年以上： 年2競技以上	実施
⑫各種スポーツ大会、作品展示会、音楽発表会等への参加 【関東地区盲学校各種大会、東京都障害者スポーツ大会、総合文化祭等】	のべ50名以上	のべ105人参加

### (3) 総合校、寄宿舎設置校として系統的な指導、生活力の育成をととした希望の進路の実現

◆目標：学校評価「個に応じた進路指導の充実」「学部間の連携・継続した指導」85%以上

◆結果：「個に応じた進路指導の充実」79.8%「学部間の連携・継続した指導」78.1%

- ①相互参観を活性化させ、参観シートを活用してフィードバックすることで、幼児・児童・生徒を多面的に理解するとともに、総合校としての一貫した指導に向けて意識が高まった。
- ②役割の遂行をはじめ、職業や進路に関する情報提供・見学・体験・実習を外部機関の協力を得て実施した。
- ③総合校として具体的に見える形で系統的な指導（キャリア教育を含む）を実践し、保護者等にも伝えていく必要がある。

(3) 系統的な指導・生活力の育成による希望の進路の実現		『自分らしく暮らし、働くために』
①一貫した指導、連携のため相互授業参観	他学部参観 寄宿舎参観	実施
②学校生活支援シート活用による「なりたい自分」キャリア発達支援	各担任 年2回	実施
③将来の生活を見据えた白杖歩行指導、一人通学指導	自立活動の時間及び随時	実施
④職場体験学習 就業体験（インターンシップ）	小・中・高普	実施
⑤あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師国家試験合格に向けた放課後及び長期休業日中の補習	希望者全員	実施
⑥希望する進路の実現（進学・福祉的就労・企業等就労）	100%	普通科 100% 理療科—
⑦新たな進路先開拓の取組	5件	
⑧外部資源を活用した授業、講座、見学	各学部2回以上	実施
⑨学舎連携会議の設置と迅速な課題対応	月1～2回	実施
⑩寄宿舎生活におけるADLの指導、自治活動の充実	随時 舎生会企画 年4回	実施

### (4) 発信力の向上と視覚障害センター校としての地域との連携強化『保護者、地域と作る学校』

◆目標：学校評価における「ホームページの掲載内容」「センター的機能の発揮」80%以上

◆結果：「ホームページの掲載内容」86.0%「センター的機能の発揮」93.4%

- ①令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症分類が5類となり、保護者の来校や交流活動の制限が緩和された。特に校舎改築中であることから地域との連携強化に努め、地域清掃や臨床実習に取り組んだ。
- ②ホームページについては、更新回数は向上したが、学校運営協議委員会からの改善提言もあり、さらに内容を充実させるとともにタイムリーな情報発信に努める。

(4) 発信力の向上と地域との連携強化		『保護者、地域とともに作る学校』
①授業参観の工夫	年3回	曜日をずらして5日間実施
②寄宿舎参観週間の実施、寄宿舎保護者会の実施	年5日間	実施

③保護者学校評価（アンケート）回収率の向上	85%以上	86.1%
④交流及び共同学習（八王子ふたば保育園、八王子市立散田小学校、館小中学校、横浜市立盲、近隣の高等学校）	幼稚部交流：年5回、その他行事相互交流参加：各年1～3回	実施
⑤副籍制度の活用（特に直接交流）	小・中学部生の40%	43.5%
⑥高等部理療科3年生による臨床実習を活用した地域貢献	校内：週5日、校外：随時	受け入れ患者520人
⑦本校及び視覚障害教育に関する情報等の発信	資料等送付1万部	実施
⑧ホームページの内容の充実・即時更新	年100回	85回
⑨学校公開、あいサポート研修会、ボランティア講座への参加促進	延べ50名	73名
⑩育児相談等による乳幼児相談支援の充実	年延べ30名	31名
⑪地域の幼稚園・保育園、小・中・高等学校等への支援	年30回	75回
⑫地域清掃タイム	児童・生徒 教職員月2回以上	28回

#### （5）校舎改築・仮校舎移転を契機とした環境整備と工夫

『ピンチをチャンスに』

- ①仮校舎移転に向けて「断捨離日」を設定し、校内物品の整理を行った。
- ②工事期間中の教育活動の充実と安全な学習環境を確保に向け、各関係機関に協力を仰ぎ、今年度は八王子特別支援学校での水泳指導、富士森公園陸上競技場での持久走記録会が実施できた。

（5）校舎改築・仮校舎移転を契機とした環境整備と工夫		『ピンチをチャンスに』
①校内の美化、不用物品の適切な廃棄「断捨離日」の設定	月1回、長期休業	実施
②校舎改築プロジェクトにおける「本校の在るべき姿」「視覚障害に配慮した生活空間の在り方」の検討・実施。「安全で充実した代替活動」の計画・実施。	通年（適時）	校舎改築P及び実施設計検討委員会等で実施
③全校行事検討プロジェクトによる「行事の在り方」検討・校舎改築及びウイズコロナに対応した行事の実施	通年（適時）	実施
④工事に伴う安全の確保に向けた関係部署との連携・調整	随時	実施
⑤体育の授業における安全な代替施設利用	水泳指導 持久走指導	実施
⑥令和6年度全国フロアーバレーボール大会主管校としての準備、関係団体との調整	準備委員会 随時	実施

#### （6）組織的、効率的な学校運営による信頼される学校づくり

- ◆目標：学校評価「組織的・効率的な運営」「ライフ・ワーク・バランスの実現」82%以上
  - ◆結果：「組織的・効率的な運営」「ライフ・ワーク・バランスの実現」81% 教職員評価のみ
- ①定期的なサービス研修（年11回）及びサービスニュースレター等を活用した意識づけを行った。
  - ②業務の精選と効率化により働き方改革を推進し、定時外在校時間の減少が大きく進んだ。

会議のもち方や情報共有の工夫をさらに進め、教職員の心身の健康増進を図り、幼児・児童・生徒に還元できる職場づくりを推進する。

- ③経営企画室と連携し、学校予算や学校徴収金の効率的・効果的な執行と編成・省エネルギーにさらに取り組む。

<b>(6) 組織的、効率的な学校運営による信頼される学校づくり</b>		
①自己申告「今年度の職務目標」の明確化と進捗状況の確認	年3回以上	実施
②経営会議による各部署の課題の早期把握・解決	週1回	実施
③経営計画進捗表による進捗確認と評価・修正	年4回	×
④確実な情報共有の工夫【会議記録、掲示板】	方法の工夫 5 点以上	△
⑤紙媒体資料の削減	年間15%減	△
⑥予算調整会議による計画的な執行管理) センター執行率向上	50%以上	× 34%
⑦「定時外在校45時間/月」超過者	15%未満	10.7%
⑧開かれた学校運営連絡協議会	教職員参加型 年1回	実施
⑨サービス事故防止研修、接客研修	年10回 サービス事故ゼロ	実施
⑩ロールモデルとなる接客、丁寧な対応の徹底	電話対応・外部対 応研修各1回	実施
⑪職員の心身の健康増進とメンタルケア	安全衛生委員会 の活用 月1回	実施
⑫PTA業務のスリム化	負担軽減の取組 と発信	実施